

森林保険だより

2024.1

No. 33

森林保険センター季刊誌

森林保険公式
キャラクター

たもち

そよりん



世界自然遺産白神山地から岩木山を望む（撮影／山田 兼博 白神案内山の会代表）

- ◆ 年頭所感 林野庁長官 青山豊久 2
- ◆ 青森県森林組合連合会 豊富な森林資源の万が一に備え
森林保険加入を心から呼びかける 3
- ◆ 令和4年度の森林保険損害てん補及び気象災害の状況 4
- ◆ 研究者からのたより スギの葉は、成長期に乾燥に弱い 6
- ◆ 保険金をお支払いした災害の事例(雪害) 7
- ◆ 森林保険公式キャラクター はじめまして「たもち」「そよりん」です 8

年頭所感



林野庁長官
青山 豊久

新春を迎え、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年は6月、7月の大雨を始めとする自然災害が全国各地で発生し、甚大な被害が生じました。亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。また、被災地で復旧・復興に尽力されている関係者の皆様方の御努力に敬意を表するとともに、被災地の一日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいります。

近年、これまでになく豪雨等による災害が頻発化・激甚化しており、防災・減災、国土強靱化のための森林整備や治山事業を着実に実施していくことがより一層重要になってくると考えています。

社会問題化している花粉症については、昨年10月の関係閣僚会議において、「花粉症対策初期集中対応パッケージ」が決定されました。有病率が最も高いスギ花粉を減少させるため、発生源であるスギ人工林の面積を10年後に約2割減少させることを目指し、伐採・植替え等の加速化、スギ材需要拡大、花粉の少ない苗木の生産拡大、林業の生産性向上及び労働力確保等の集中的な実施が必要であり、花粉症対策を着実に進めてまいります。

また、近年、地球規模での温暖化防止対策として、温室効果ガスの排出削減を進める取組が活発化しています。国内では、昨年10月に東京証券取引所にカーボン・クレジット市場が開設されました。森林管理による温室効果ガスの吸収量をクレジットとして認定する取組が進み、令和5年の森林由来のJ-クレジットの認証量は、過去最高でした。今後とも、森林分野での活用拡大に取り組んでまいります。

さらに、令和6年度は森林環境税の課税開始となる節目の年です。令和6年度税制改正では、森林整備を一層推進する観点から、森林環境譲与税の譲与基準が見直されることとなっています。国民の皆様には御負担いただくこの貴重な税を効果的に活用し、その取組の成果を積極的に示していくことが重要と考えており、林野庁としても活用促進に向けた市町村へのきめ細かなサポートや広報の取組強化を行ってまいります。

これらの森林整備の取組等において、森林所有者が自ら災害に備える唯一のセーフティネットである森林保険を活用し、様々なリスクに備えることの有効性が益々高まっております。林野庁としては、森林・林業・木材産業を持続的に発展させ、また、我が国に暮らす全ての皆様、林産物の供給、国土の保全、水資源のかん養、二酸化炭素の吸収、生物多様性の保全など森林の有する多面的機能の恩恵を末永く享受できるよう、日々邁進していく所存です。皆様におかれましては、これらの施策への御理解、森林保険制度のさらなる御活用と御協力をお願いいたします。

結びに、本年が、皆様一人ひとりにとって、実り多き素晴らしい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

青森県森林組合連合会

豊富な森林資源の万が一に備え 森林保険加入を心から呼びかける

青森県の森林の特徴

青森県の森林面積は63.3万haで、県の面積の約65%にあたります。このうち国有林が39.5万haを占めており、森林面積の約62.4%となっています。人工林面積は26.3万haで、全体の約41.5%となっています。このうちスギに関しては、全国で4位の人工林面積を有しています。

青森県南西部に位置する白神山地では、ブナの蓄積量が全国1位を誇り、人為の影響をほとんど受けていないとされ、1993年12月に日本で初めて世界遺産に登録されました。また、県木に指定されている青森ヒバは天然秋田スギ、木曽ヒノキと並び、日本三大美林のひとつとして位置付けられ、害虫や菌、湿気に対しても強いことから木材としての利用や、リラックス効果のある香りが注目されています。このように、本県には豊富な資源と景観に優れた森林が存在します。

自然災害の発生状況

本県の主な自然災害は雪害です。過去20年の年間降雪量（降雪の深さ）を見てみますと、例えば青森市では最も多かったのが2005年で1043cm、最も少なかったのが2020年で264cmと、年によって大きく開きがあります。雪害は、降雪量だけではなく雪質や気温にも左右されるので、対応が難しい自然災害となっております。

森林保険契約地での大規模な雪害としては、2010年12月31日からの大雪による被害があげられます。

この大雪では、倒木で電線が切断され、県内9市町村の約2万1000世帯が停電し、最も長い地域で

は約3日停電が続くほどでした。森林保険契約地では、1日で76件、実損面積計53.07haの損害が発生しました。雪害の場合、被害の発見までに時間を要することや、範囲が広がったこともあって損害調査に時間がかかってしまいましたが、多くの方に保険金をお支払いすることができました。ご契約者様からは、森林保険に加入していて良かったと感謝され、罹災したご契約者様は、その後も継続して森林保険に加入していただく割合が高く、新規加入も多くなっております。

森林保険の加入促進

日本では近年特に、気候変動による自然災害が多いので、森林所有者に保険の重要性を伝えることと、まだまだ認知度が低い保険だと思っておりますので、存在を周知することが大切だと思っております。災害がメディアで報道されても、森林保険の被害の報告はないことも多いので、加入率は低いと実感しております。

また、満期のご案内をお送りしても契約を更新されない方も多く、保険の必要性を感じていない方も多いと感じます。しかし、森林所有者自らの手で森林を守ることは難しいので、災害に備える唯一の手段として一人でも多く森林保険に加入していただくよう、森林組合職員とも協力して加入促進活動に力を入れていきたいと考えております。



2010年の大雪で被害を受けた森林（三戸町）



2010年の大雪で被害を受けた森林（新郷村）

令和4年度の森林保険損害てん補及び気象災害の状況

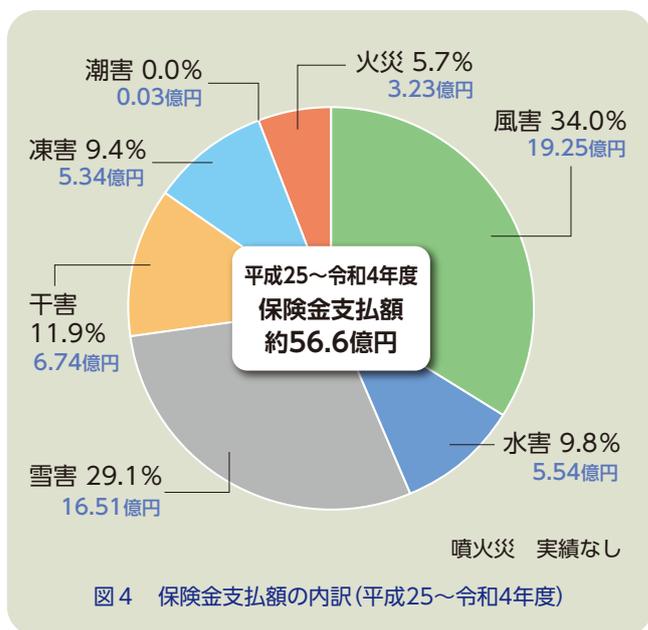
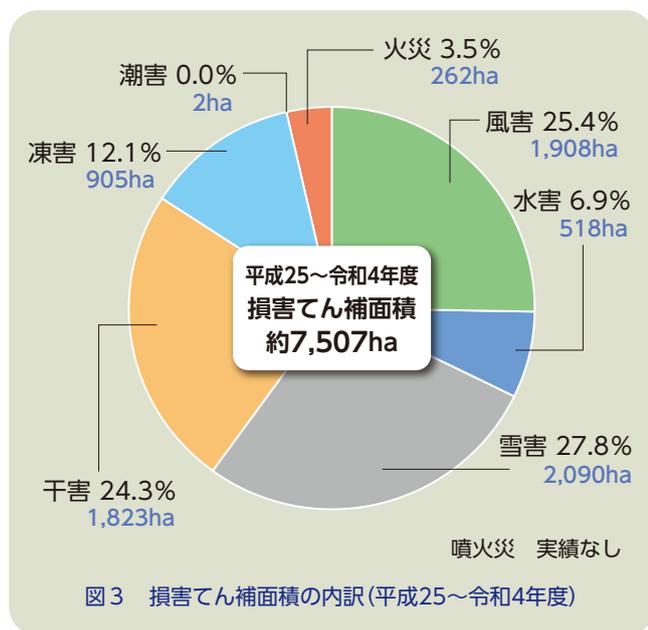
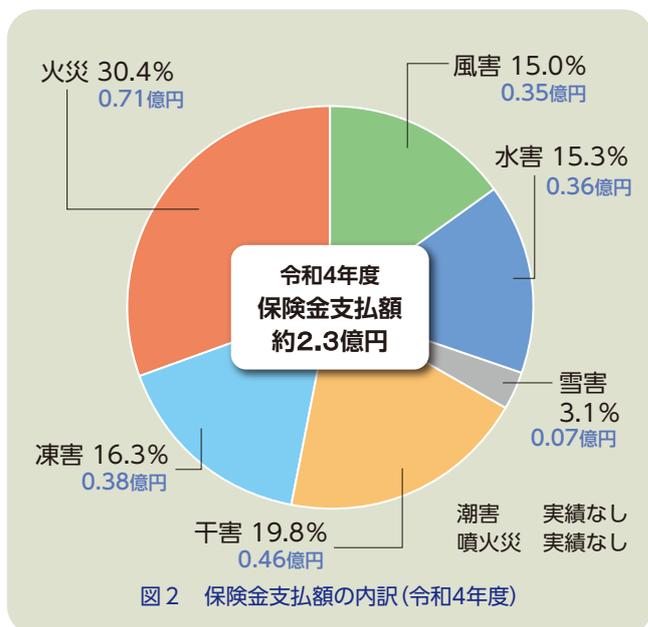
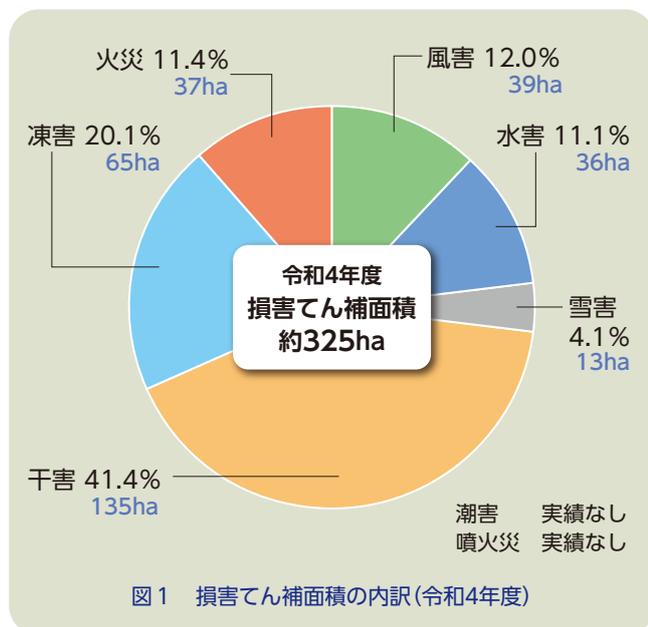
令和4年度の損害てん補状況

令和4年度の森林保険の損害てん補件数は787件、損害てん補面積は約325ha、保険金支払額は約2.3億円となりました。災害別の損害てん補面積は干害135ha、凍害65ha、風害39ha等(図1)、保険金支払額は火災0.71億円、干害0.46億円、凍害0.38億円等(図2)となっています。

なお、これらの実績には過年度に発生した災害によるものも含まれています。

また、平成25年度から令和4年度までの10年間の累計を見てみますと、損害てん補面積は雪害2,090ha、風害1,908ha、干害1,823ha等(図3)、保険金支払額は雪害16.51億円、風害19.25億円、干害6.74億円等(図4)となっています。

各年度毎の災害別・都道府県別の内訳など詳しいデータについては、森林保険センターサイトに掲載している「森林保険に関する統計資料」をご覧ください。



令和4年度の気象災害の状況

<気温>

令和4年度は、春から秋にかけて気温が高い状況が続き、年平均気温は全国的に高く、特に北日本で高くなりました。夏は、平均気温が東・西日本と沖縄・奄美でかなり高く、西日本では1946年の統計開始以来1位タイの高温を記録しました。秋も全国的に平均気温がかなり高くなりましたが、一方で、10月には強い寒気により東日本で低温となるなど気温の変動が大きい時期もありました。冬は、12月後半や1月下旬は顕著な低温、1月中旬や2月後半は顕著な高温と、約1ヵ月周期で気温が大きく変動しました。

<気象災害>

令和4年度においても、8月の大雨、台風第11号、14号、15号、12月17日からの大雪、12月22日からの大雪等により、各地で被害が発生しました。

各災害の概況を振り返りますと、8月の大雨では特に1日から6日にかけて、北海道や東北、北陸を中心に記録的な大雨となりました。3日から4日にかけては、複数の線状降水帯の発生により山形県や新潟県を中心に東北から北陸で大雨となったほか、4日には石川県や福井県で、

5日から6日にかけては福井県、滋賀県、三重県等で大雨となり、各地で土砂災害等による被害が発生しました。

台風第14号は、9月18日に大型で非常に強い勢力で鹿児島県に上陸し、九州を縦断後、中国地方から日本海を進みました。これにより、九州を中心に西日本から北日本の広い範囲で暴風となり、九州から中国・近畿の多くの地点で最大瞬間風速の観測史上1位の値を更新しました。また、発達した雨雲が長時間かかるとともに、線状降水帯が発生したため、九州や四国を中心に大雨となりました。

台風第15号は、9月22日から24日にかけて近畿地方や東海地方に接近し、静岡県や愛知県で線状降水帯が発生するなど記録的な大雨をもたらしました。

12月の大雪では、12月17日から19日にかけて、福島県や山形県、新潟県を中心に北日本から西日本の日本海側で大雪となり、四国や九州でも山地を中心に大雪となりました。また、22日から24日にかけても北日本から西日本の広い範囲で大雪となり、普段比較的雪の少ない北海道のオホーツク海側や西日本の太平洋側、東海地方の平地でも大雪となりました。さらに、1月20日からは西日本から北陸地方を中心に大雪となり、近畿地方や東海地方の平地などの西日本でかなり雪が多くなりました。

参考：2022年(令和4年)の日本の天候(気象庁)
災害時気象報告 前線による令和4年8月1日から8月6日にかけての大雨等(気象庁)
災害時気象報告 令和4年台風第14号による9月17日から9月20日にかけての暴風及び大雨等(気象庁)
災害時気象報告 令和4年台風第15号による9月22日から9月24日にかけての大雨等(気象庁)
冬(12月～2月)の天候(令和5年)(気象庁)
令和5年度防災白書(内閣府)

森林保険契約地の災害事例



令和4年8月3日の大雨による水害
(新潟県)



令和4年9月の台風第14号による水害
(鹿児島県)



令和4年9月の台風第11号、14号による風害
(宮崎県)

スギの葉は、成長期に乾燥に弱い

国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 企画部 研究評価科長

齊藤 哲



近年の猛烈な台風や、豪雨、長期の乾燥などの極端な気象現象の増加は、気候変動に起因しているともいわれています。こうした極端な気象現象は、森林にも影響を及ぼすと考えられます。森林総合研究所では、研究プロジェクト「人工林に係る気候変動の影響評価」を実施し、気候変動がスギ人工林に及ぼす影響について研究しました。夏にスギの葉の先端が枯れる乾燥害が発生することがありますが、気候変動で乾燥が続くことがあれば、葉枯れの被害が拡大する恐れがあります。その対策を考える上で、スギの葉が乾燥の被害をうけやすい条件を知ることは重要です。そこで私たちは、スギが乾燥で枯れるメカニズムを調べました。

樹木は、葉で光合成をするために水を必要とします。スギの成木は高さ20mを越えることもあり、その高さまで水を吸い上げるのに強い力が必要で、葉の内部には強い負の圧力（負圧）がかかります。乾燥が続くとより強い負圧がかかり、負圧が大きすぎると葉の細胞がその圧力に耐えきれなくなり、葉が萎れてしまいます。私たちは、上層まで到達できる鉄塔を建て、実際に葉にかかっている負圧と、葉が萎れ始める、つまり葉が乾燥に耐えられる負圧（萎れ点）との関係をスギの上層の葉で1年を通じて調べました（写真1）。

図は、日中上層のスギの葉にかかっていた負圧（緑色の線）と、葉が萎れ始める萎れ点（茶色の線）との関係を示したものです。緑色の線が茶色の線を下回ると葉が

萎れることとなります。4月から8月ごろまで緑色と茶色の線が接近しています。これは、葉が萎れる寸前の状態が続いている、ということを示しています。この時期は葉も成長途上にあるため葉の構造も弱く（写真2）、萎れ点も小さいことがわかりました。同時に伸長期であることから盛んに光合成をする必要があり、萎れる寸前の状態になるまで葉に負圧をかけ光合成を行っていると考えられます。このとき雨の降らない日が続く乾燥の被害を受けやすいと考えられます。一方、8月以降は緑色の線と茶色の線が離れ始めます。この時期は針葉の細胞壁が成熟し硬くなるため、萎れ点のラインも下がってきます（図）。春から夏に比べ、9月以降は葉にかかる負圧と萎れ点の距離が離れ、乾燥害のリスクは小さいといえそうです。



写真1
鉄塔の高所での測定

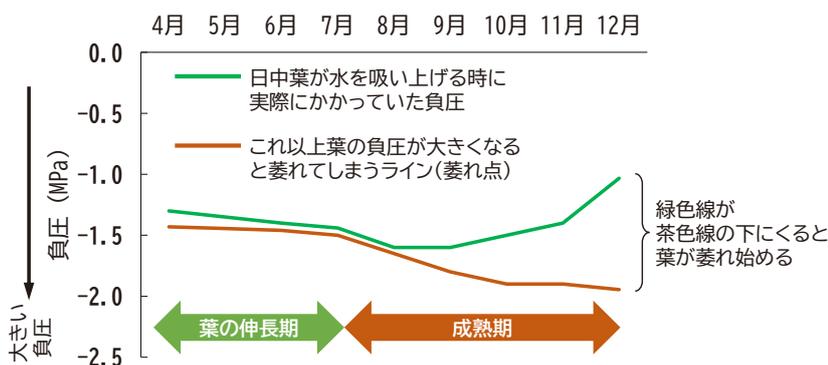


図 葉が水を吸い上げる時にかかっていた負圧と萎れ点の季節変化



写真2 芽吹いた直後の新葉。まだ柔らかい

保険金をお支払いした災害の事例

～ 入っていてよかった、森林保険。皆様もご加入ください ～



令和3年1月は、強い冬型の気圧配置が続き、爆弾低気圧が通過し大荒れとなった。当該地でも例年より降雪量が多く、冠雪後の暴風の影響も受け、植栽木の傾斜、幹折れ等の被害が発生した。



事例 青森県 私有林

樹種・損害時林齢：スギ・6年生
実損面積 / 契約面積：0.65ha / 1.52ha
支払保険金：1,079,000円

(参考)
ha当たり保険料 / 年：4,245円(5年契約)
付保率：100%

入ってて良かった、森林保険。
なま入ったほうがあんずましいや～



雨返し (あまがえし)

青森県内でよく使われる言葉で、冬に寒さが緩んで雨が降った後、吹雪となることをいいます。

寒さが緩んで雨となるのは、低気圧が接近して暖気が入ってくるからで、この低気圧が通過すると、冬型の気圧配置となって吹雪となります。

日本海を進んだ低気圧が発達しながら北海道付近を通過するときに「雨返し」が顕著に表れます。

出典：青森地方気象台ホームページ「よくある質問と答え」

表紙

世界自然遺産白神山地から岩木山を望む

撮影 / 山田 兼博 (白神案内山の会代表)
文 / 久保田 尚子 (森林保険センター)



白神山地は青森県、秋田県にまたがる標高約200mから1,250mの広大な山岳地帯で、このうち原生的なブナ林が分布するエリアが世界自然遺産となっています。令和5年12月には、世界自然遺産に登録されてから30周年を迎え、多くの観光客が訪れています。

そこから望む岩木山は標高1,625mと青森県で最も高く、津軽平野のどこからでも見える独立峰です。その魅力的な姿を、太宰治は「富士山よりもっと女らしく、十二単衣の裾を、銀杏の葉をさかさに立てたようにぱらりとひらいて左右の均斉も正しく、」(小説「津軽」)と、何とも美しく書き表しました。見る場所、見る季節により様々な表情を見せる岩木山は、かけがえのない人々の心のふるさとでもあります。

初めまして
「たまちい」と「そよりん」です

キャラクター紹介



たまちい

森林を育む人に寄り添い、
森林の再生を応援する
“しんりんほ犬”
責任感の強いしっかりもの。



そよりん

森林に宿る妖精。
山火事や自然災害に困っていたが、
たまちいと出会って
心強く感じている。
ちょっとのんびりでマイペース。

令和5年10月23日、森林保険に新しい公式キャラクター「たまちい」と「そよりん」が誕生しました。

豪雨や台風等の自然災害や山火事が多く発生するなか、森林所有者や森林・林業関係者の皆様に広く森林保険のことを知っていただきたい—

そんな思いから生まれたこの新しい仲間とともに、多くの皆様に森林保険をご活用いただけるよう、これからも取り組んでまいります。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



森林保険センター公式ウェブサイト・公式SNS

ウェブサイト

<https://www.ffpri.affrc.go.jp/fic/>



Facebook

<https://www.facebook.com/shinrinhoken/>



YouTube

「森林保険チャンネル」

<https://www.youtube.com/@FIC-channel>



国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林保険センター

〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町 66-2 興和川崎西口ビル 9F

電話：044-382-3500 (代表) FAX：044-382-3514



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



印刷：北越印刷株式会社